

ヒカル、19歳の夏・・・

や〇ざにガストで詰められました。

自営業が軌道に乗り、毎月数百万円を稼いでいた俺は調子に乗っていた。
19歳で毎月の収入が100万円を超え、自分に過信していたのは間違いない。

左腕には10Pダイヤが散りばめられたロレックスのデイトジャストを身につけ、
首元には18金100gの喜平ネックレス。

そして指には3本、純金の指輪で愛車はもちろん左ハンドル。

すごく調子に乗っていた。
自分ほどすごい19歳はいないと小さな世界だけを見てほざいていた。

これが俺の19歳の夏・・・

そんなときに突然電話が鳴り、知り合いの社長からビジネスの話を持ちかけられることとなる。

これが破滅への第一歩だった。
この時点で俺の人生は狂い始めることとなるからだ。

しかし、知らない。

19歳の俺はそんなこと知る由もない。
自分の歩いていく方向が「地獄への階段」なんてことは。

話を聞いてみるとすごく美味しい話だった。
何とも美味しい話。

普通なら怪しく思うんだろうが、波に乗っていた絶好調な俺に、そんなネガティブな考えは1つもなかった。

今思えばバカだったと思う。

大ばか者もいいとこだったと。

しかし、それも後のお祭りでこの時は何も不信感や不安など抱いていなかった。

「どうせ成功する、だって俺だから」

こんなことを言っていたのを今でも覚えている。

一緒にビジネスをすることになった人は42歳で少しいかつめの社長さん。

ソフトモヒカンでガタイはよく、いかにも社長っていう風格を持っていた。

しかし、笑うとすごく優しくて「なんてこの人は頼りになるんだ！」とか思ってた。

騙されているとも知らずに。

ビジネスの話も順調に進んでいく中で、いつのまにか大事な部分すべてをその社長さんに委ねていることに気付く。

時すでに遅し、とはこのことだ。

もう気付いた時にはすべてが遅かった。

そこから事態は急転し、信用ミスからの取引先との契約破綻。

会社の責任全てを俺は被らされることとなる。

しかし、この時の俺はまだ焦っていなかった。

「どうにかなる！」

なぜか、そんな風に思っていた。

まさか相手がああ「ミナミの帝王」なんかに出てくる「や○ざ」だなんて知らなかったから。

そして話し合いのために舞台はガスト（レストラン）へ。

ガストに着くとなぜか 42 歳の社長さんと 2 人で話し合いのはずが
えらく風格の漂った全身グッチのモノ（ブランド）を身に纏った 30 代くらいの男の人がい
た。

とにかく普通ではない雰囲気をもった人だった。
（以後、グッチの男とします）

ガストには 19 歳の生意気な社長、42 歳のいかつい社長、グッチの男、
という異色の 3 人が並んだ。

周りからすれば息子に思われるような組み合わせだ。
まさかこれから恐ろしい話しが飛び交うなんて誰も予想していない。

俺だって予想していなかったのだから。

「どうやって責任を取る？」
口を開いたのは 42 歳の社長ではなく、グッチの男。

「どちらさまですか？」
俺は訳が分からなかったので聞き返した。

「こちらの方の代理で話をつけにきた」
こう言われたので
あーそういうことか、と現在の自分の置かれている状況を理解した。

なんでも、会社の信用を失ったのはお前のせいだということで 1000 万円を要求されること
となる。

冷静に考えてほしい。
場所はガスト。

正直、俺は「何をこのグッチの男は言っているんだ？」と思っていた。

しかし、その男が出す雰囲気完全に飲まれていた俺はこういってしまう。

「すみませんでした、僕の責任です。でもお金はありません。」

そこから矢継ぎ早に俺は詰められていく。

この時点で試合は終了していた。

俺の心が折れたからだ。

ぶっちゃけると怖かった。

完全に恐怖に飲まれていた。

涙を堪えていたのはきっと 2 人にばれていたと思う。

しかし、グッチの男は続けてこう言い放つ。

「人の指は 1 本 200 万の保険が下りる、お前の責任やから 1000 万用意しろ。」

これは人生史上、初めて死を予感した瞬間。

グッチの男は「や○ざ」だった。

(物凄く有名な組の若頭だと後で知る)

大袈裟に聞こえるかもしれないが当時の俺はもう恐怖でいっぱいだった。

というか恐怖しかなかった。

冷静に考えれば警察に行けないこともなかったし、別に何か悪いことをしたわけではなかったのだから払う必要なんてどこにもなかった。

しかし、そんな判断ができるほど俺は大人ではなかった。

無知な餓鬼だったということだ。

最終的に俺は兄の力や家族の力を借り、1000 万円の支払いをする。

こうしてわたしは 20 歳の誕生日を迎える。

残ったものは総額 800 万円の借金だった。

「こんな漫画とかドラマみたいな話があるか！」

と思う人もいると思う。

俺もそうであってほしかった。

だがこれは事実であり、俺の過去だ。

物凄く短くまとめたが大まかな事を話すとこんな感じ。

でも今思うことは

この経験がなければ今の自分はいない、

ということ。

普通の 19 歳では経験することのできない体験を俺はすることができた。

一生の財産だ。

つまり 19 歳にして俺は 1000 万円の自己投資をしていることになる。

そう解釈している。

1000 万円の授業料を払ったのだと。

しかし、面白いことがある。

いまでも俺は 42 歳の社長と普通に食事をする仲だということだ。

騙されて詰められたことは

もう怨んではいないし、後悔もしていない。

「最高の授業をしてくれてありがとう、今の俺があるのはあなた達のおかげだ。」

そう感謝している。

バカなのかもしれないがこの経験は物凄く生きている。
人生のどん底を経験させてもらったことが今を作っているのだと思う。

なぜ、こんな恥ずかしい過去を晒したのか？

「しょうもないこと」でクヨクヨしたり落ち込んだりする人が多いからだ。

世の中には物凄く辛い思いをしている人がたくさんいる。
俺のこんな過去よりももっと悲惨で残酷な経験をしている人なんて山ほどいる。

それを知ってほしかったからだ。

「～～です。どうしたらいいですか？」

「助けて下さい。～～になってしまいました。」

こんなメールがたくさん来る。

そのたびに思う。

「たかが、その程度のことで弱音を吐くくらいならやめてしまえ！」
と。

そんなの比にもならないくらい、辛い経験をしている人がいるのだと知ってほしい。
だから、ネットビジネスをできているだけで私たちは恵まれている。

物凄く恵まれている。

今回の例が適切なのかはよく分からないが、これで何か感じてくれる人がいれば俺はそれで満足だし、十分だと思っている。

そしてわたしは今 21 歳です。

平成 3 年生まれの 21 歳。

きっとわたしは一般の 21 歳よりもたくさんを経験しています。

「こんな世界もある」というのをこれからも発信していきます。

自分にしかできないことだと思うし、最高に楽しそうだから。

孫悟空がドラゴンボールを集める時みたいに「わくわく」できそうだから。

わたしは、そんな人生にします。

最後までお読みいただきありがとうございます。

稚拙で偉そうでうっとうしい文章だったかもしれません。
不快にさせてしまったらそれは申し訳ありません。

ただ、わたしはこういう人間です。
わたしの過去を知ってもらえてスッキリしました。

では、感想とか待ってます。
失礼します。

【プロフィール】

名前 ヒカル
性別：男

1995年、平成3年生まれ。
「一生ニート宣言」という型破りな起業家。

18歳から自営業を始め栄光と挫折を経験し19歳で抱えた借金は800万円。
しかし、そこから突如ネットビジネスの世界に参入し、たった4ヶ月で100万円を稼ぐ。

その後も4ヵ月連続で収入を伸ばし、メルマガ開始5ヶ月で1000万円を稼ぎ、一気に注目を浴びることとなる。

2018年7月、現在のコンサル生は100人を超え、稼がせることを第1に考えたメルマガを発信している。

公式ブログ <http://koya01.wp.xdomain.jp/>